



# 緑の地球新聞

第146号

2019年10月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

## いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203  
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507  
URL: <https://green-earth-japan.net/>  
e-mail: [defense@green.email.ne.jp](mailto:defense@green.email.ne.jp)  
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150



中国陝西省の地図  
陝西省は中国大陸の中央部に位置している。榆林市はこの陝西省最北部の行政区。

## 順調に進展する 中国東陽山緑化事業

中国東陽山緑化事業は、当基金と陝西省榆林市横山県との間で交わされた「造林に関する覚書」に基づき、2013年から2020年までの8年間、陝西省東陽山において25ヘクタール、1万400株の植林を行うこととして取り組まれてきました。

陝西省は中国のほぼ中央に位置し、省都は西安（かつて中国の政治、経済、文化の中心地であった長安の都）です。植林現場のある榆林市は、陝西省の最北部に位置し、西安から飛行機で約1時間かかる遠隔地です。気候条件は厳しく、夏の最高気温33度、冬の最低気温マイナス20度、年間降雨量約550mlの半砂



2014年春。  
半砂漠地の厳しい環境の中での樟子松の植林風景。

漠地です。

本件事業もあと1年となりました。今般陝西省から植林の状況が報告されましたので、お知らせします。

### ●2017年までの5年間の取組

2013年から2017年までの5年間に、補植を含めて6,480株の樟子松が、16ヘクタールの地に植林されました。植林現場のある榆林市は、名前のとおり、もともとは榆林のある風光明媚な地だったのでしようが、近年砂漠化が進み、中国の「防砂治沙」の重点都市に指定されています。



2019年春。  
順調に成長しつつある樟子松の植林地風景

植林でしたが、2019年6月時点で、苗木の高さは最高2.7m、最低でも1.5mに達し、活着率も87.9%と良好な数字を示しています。

防護林として順調に成長している本件植林地には、防風防砂、水と土の保持、空気の浄化、環境美化等の多くの効果が期待されており、当地の生態防護システムとして欠かすことのできないものになりつつあることが報告されています。

### ●2018年、2019年の2年間の取組

緑化事業の開始から6年目となる2018年5月、それまでの植林地から約3キロ離れた地に、新たに9ヘクタールのクルミの植林を実施し、覚書に記された25ヘクタールの植林プロジェクトが完成しました。



2018年のクルミの植林地。乾燥した大地が続いている。

4,455株となっています。  
 2019年6月時点での苗木の活着率は92.3%と良好です。成長状態も良く、まだごく少数の木ですが、2019年に実を結びました。  
 2020年にはほとんどの苗木が実を結ぶ見込みです。  
 クルミは耐寒性、耐旱性に優れた特長を有しており、土地が痩せて日当たりが強く、早魃地である黄土高原でも、谷間にしっかりと根付いています。現地では本件植林事業による高い経済効果が期待されています。

●今後の本件植林事業への対応

中国東陽山緑化事業は、事業開始から本年までの7年間で、25ヘクタールの地に、覚書を上回る10,

933株（楠子松6,480株、クルミ4,455株）の苗木を植え付けることが出来ました。

残り1年間は新たな植樹はせず、今まで植樹してきた林の補植やメンテナンス管理をしっかりを行い、25ヘクタールの植林を完成させていく予定です。

日中が協力して造成した林が、今後長きにわたって、安定した防風防砂効果と経済効果（利益）を両立できることを強く願っています。



2018年の植林時のクルミの苗木。



2019年の状況。1年経過して実が成るまでに成長したクルミの木。

環境危機時計9時46分と調査開始以来最悪となった2018年の9時47分とはほぼ同じ結果

環境悪化による人類存続の危機を、世界の有識者等はどう認識しているのでしょうか。

9月6日に公益財団法人「旭硝子財団」が2019（令和元）年のアンケート調査結果を公表しました。調査は1992（平成4）年より毎年実施されており、今年の世界143か国2,072名から回答がありました。

環境悪化による人類滅亡の時刻を12時とする「環境危機時計」は、2019年は1分戻って9時46分となり、調査開始以来最悪となった昨年とほぼ同じ数値となりました。

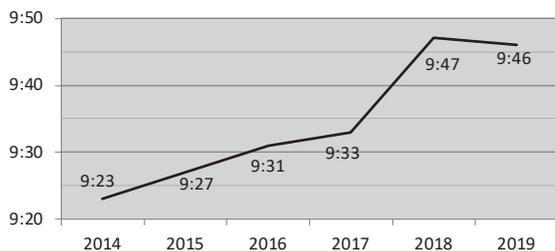
過去6年間の危機時刻の推移は表のとおりです。危機意識が高い地域はオセアニア10時31分、北米10時30分、西欧10時6分と続き、低い地域はアフリカ8時59分でした。

日本は9時39分でしたが、2017年9時8分、2018年9時31分から大きく時計の針が進み、危機意識が高まっています。

個々の環境問題をみると、危機時刻を決める上で最も深刻だと思われる問題は、昨年3位だった「生物多

過去6年間の危機時刻経年変化（全世界）

1992年の調査開始以来最も針が進んだ昨年とほぼ同じ危機感を示している。



様性」が9時58分で1位となり、次いで「人口」、\*「ライフスタイル」が9時54分で同率の2位となりました。（\*「ライフスタイル」とは、エネルギー、資源多消費型のライフスタイルからの転換を意味します。）  
 また、「気候変動」はアンケート回答者が危機時刻を決める上で最も念頭に置いた項目でしたが、危機時刻では9時44分で4位でした。  
 2019年度から、「環境問題への取組に改善の兆しは見られるか」との設問が設けられました。これによると、脱炭素社会への転換について地域差はあるが、全体としてわずかながら改善が見られるとの結果が出た反面、危機時刻を決める上で最も深刻とされた「生物多様性」は5位にとどまり、深刻さが増していることが危惧される結果となりました。

## 「地球にやさしいカード」2019年度助成団体紹介

## FoE Japanの活動

FoE Japanは、1980年から日本で活動する国際環境NGOです。気候変動・森林破壊・開発による環境破壊・原発エネルギー問題など様々な問題に取り組み、調査・提言活動、キャンペーン活動を通じて地球上のすべての生命（人、民族、生物、自然）が互いに共生し尊厳をもって生きることができ、平和で持続可能な社会を目指しています。

## 拡大する気候変動の被害

相次ぐ豪雨災害や連日の猛暑、日本でも気候変動の影響を身を以て感じる機会が増えました。2015年に採択された「パリ協定」は、京都議定書に代わる気候変動に関する国際的な枠組みです。そこには、世界の気温上昇を産業革命前に比べて2℃未満より十分低く保つことを目標とし、1.5℃に抑える努力を追求すると書かれています。

しかし、世界の平均気温はすでに産業革命期前に比べ、約1℃上昇しています。世界中で気候変動を原因とする異常気象の多発、海面上昇など、様々な形で私たちの生活や自然環境に影響が出ています。2017年、災害による国内避難民は世界で2千万人にも及びました。2018

年、インド全体で年間500万人以上が洪水などの災害で影響を受けました。2019年に入ってから北極圏での火災が深刻です。

FoE Japanは最新の国際議論をウォッチし、途上国の現状や市民社会の声を踏まえた提言活動を日本政府などに対し行うことに加え、実際に気候変動の影響を受ける途上国での現地調査も行っています。これまでに、スリランカ、フィリピン、インドネシアにおける気候変動の影響とその対策や課題などについて調査し、動画などにまとめています。最近ではモルジブの海面上昇や適応の限界について調査を行いました。

日本はこれまで多くの化石燃料を



海面上昇など気候変動の被害を受けるモルジブの海岸

消費して発展してきた上、今でも一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量が世界5位という大量の温室効果ガス排出国でもあります。気候変動への歴史的責任が大きい日本には、自国内での大幅な温室効果ガス排出削減や、途上国への資金・技術支援を行うことが求められています。

近年、気候変動の観点から、発電源の中でも温室効果ガスを最も多く排出する石炭火力発電からの脱却が世界的に進み始めています。

日本は石炭火力発電に大きく依存しています。また、日本は「従来より効率の良い日本の石炭火力発電」を「気候変動対策」として輸出推進しています。しかし、高効率といえども、石炭火力発電はその他の電力源に比べて最も多くの温室効果ガスを排出します。また途上国に輸出される石炭火力発電所には大気汚染物質を抑制する装置が十分に備え付けられていないケースが多く、公害の原因にもなっています。

気候変動対策に人権や公平性の観点点が欠ければ、結局、人権侵害や環境破壊につながってしまい、本末転倒です。そのためFoE Japanでは、支援の現場で起きている問題点についても調査し、人権や持続可能性に配慮した「海外支援」が行われるよう提言活動を行っています。

また、国内で進む新規石炭火力発電事業に関する問題提起や、地域住

民の方々と協力した情報発信などの活動を行っています。

気候変動の緊急性を感じる人がまだ少ない日本。国際的な議論をわかりやすく紹介したり、若者を巻き込んだイベントやセミナーなどを開催し、気候変動を自分ごとにし、一人ができる気候変動アクションを呼びかけています。

気候変動対策は待ったなしです。多くの人の生活や命、人権が危機にさらされています。

何十年も前から、大量生産・大量消費・化石燃料依存のライフスタイルが地球を破壊させると警鐘が鳴らされ続けていますが、いまだに私たちの社会は抜本的な転換を実現できていません。今こそ、政策はもろろんのこと、ライフスタイルや今の社会のシステムを大きく変えなくてはならない時に来ています。



COP 24 ポーランド会議で気候正義を訴える市民の様子 (2018年12月ポーランド)

## (お知らせ) 第13回 研究・活動報告会の開催

11月8日(金)に標記の報告会を開催します。

様々な環境問題に取り組む助成団体のうち、本年は「生物多様性」に注目して下記記載の2団体から、日頃の活動状況が報告されます。また、活動報告に先立ち、令和元(平成31)年度助成団体に対して、「助成金贈呈式」を開催します。

入場無料です。多くの皆様に日頃の活動状況をお聴きいただければと願っています。ごぞってご出席をお願い致します。

**主催** 公益財団法人 緑の地球防衛基金

**後援** 株式会社セディナ地球にやさしいカード

**日時** 令和元年11月8日(金) 14:00～17:00

**場所** 馬事畜産会館2階会議室

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16

(地下鉄東西線・日比谷線「茅場町駅」徒歩5分

JR京葉線・地下鉄日比谷線「八丁堀駅」徒歩5分

都営バス東16系統 東京駅八重洲口発深川車庫前または東京ビッグサイト行き バス停「新川」下車徒歩2分)

**第一部 助成金贈呈式 (14:00～)**

**第二部 研究・活動報告会 (14:30～16:30頃)**

○「トンボの種の保全と自然環境を守る」

NPO法人 桶ヶ谷沼を考える会

○「国の天然記念物のシマフクロウ保護に向けた取組」

虹別コロカムイの会

この後、意見交換のための懇親の時間を若干設け、17:00頃終了予定です。

参加ご希望の方は、「緑の地球防衛基金」まで、次のいずれかの方法でご連絡願います。電話(03-3297-5505)、FAX(03-3297-5507)、E-mail(defense@green.email.ne.jp)。締切りは11月6日。

## たくさんの使用済み切手など ありがとうございました

### 使用済み切手等売上表

(6月中旬～9月15日)

未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	282,078円
未使用/書き損じハガキ	23,134円
外国コイン&紙幣	4,560円
合計	309,772円

### 使用済み切手等協力者

(6月中旬～9月15日敬称略)

足立恵美子、阿部榮美子、淡野ゴス  
ペルクワイアチャリティコンサルタント  
来場者、石井ふみ子、市川浩一、一  
柳清美、渋川文隆、進士五十八、菅  
井節子、染矢武尊、土屋のり、富沢  
千代、羽生佳代子、林央、福田順子、  
堀内志保、山口元子、藪陽一、渡辺  
純子、匿名

### 同人・団体協力者

(6月中旬～9月15日敬称略)

㈱朝日工業社、井上健太郎税理士事務所、インフォコム(株)、宇佐ながすライオンズクラブ、柏市国際交流協会、神奈川県機器工業(株)、神奈川県少年友の会、(二財)九州環境管理協会、京葉ガス「小さな親切」の会、国際ソロプチミスト大阪中央、三洋電機ボランティア推進委員会、(株)シーエスイー、JXTGエネルギー(株)関東第2支店、清水建設(株)安全環境本部、新光電気工業(株)、生長の家白鳩会東京第二教区連合会、ダイジク(株)、大成建設(株)横浜支店、大平工業(株)、高千穂ライオンズクラブ、宝

### 新入個人会員

(6月中旬～9月15日敬称略)

江島智恵子

### 寄付協力者

(6月中旬～9月15日敬称略)

新井信衣、淡野ゴスペルクワイア及びチャリティコンサート募金箱、(株)ECC、大槻幸一郎、木野友義、黒澤一雅、小松原誠、酒本直樹、ジャパンカインドネス協会、(株)正宝住販、(株)セディナ、ボランティアアベンダー協会、森口修、ラサ商事(株)

塚FAN、S文通サークルRenka、(株)種清、「小さな親切」運動奈良県本部、デジタルプロセス(株)、東京少年友の会立川会、東洋熱工業(株)大阪支店、有限責任監査法人トーマツ、(一社)徳之島観光連盟、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター、ニッパツ・メック(株)、日本機材(株)、日本フルハーフ(株)、日本郵便(株)市川大洲郵便局、パナソニックエコソリューションズ労働組合、パナソニックホームズ労働組合、ハンドメイドLuxe、日立建機日本労働組合、日立建機労働組合日本社支部、福岡県立特別支援学校「福岡高等学校」富土通コミュニケーションサービス(株)、(公社)宮城県宅地建物取引業協会、(株)ミライト・テクノロジーズ緑の会、(株)ロイヤルパークホテル、ワミレスコスメティックス(株)